

# ふるさと再発見 第30回

Re:discovery Omihachiman

近江八幡偉人伝 ③

―安土に芸術家を集わせた人―

## 伊庭慎吉

『近江八幡の歴史』の最終配

本である第9巻「地域文化財」

編を、いよいよ今月から頒布を

開始します。「地域文化財」とは、

地域で大切に守り伝えられてい

るさまざまな地域文化遺産をさ

し、国・県・市に指定や登録さ

れている文化財と分け隔てなく、

同巻で紹介しています。

これらの地域文化財が残され

るには、そのもとななる環境や

人が重要になります。今回の近

江八幡偉人伝は、その環境を作

った人物の一人として伊庭慎吉

を紹介します。

伊庭慎吉は、明治18(1885)

年、住友総理事をつとめた伊庭

貞剛の四男として西宿村に生ま

れます。美術を愛した慎吉は20

歳の時、パリの美術学校アカデ

ミー・ジュリアンに留学してい

ます。同校は、住友家から支援

を受けていた著名な洋画家・鹿

子木孟郎も学んでいます。父貞

剛とも親交があったことから、

慎吉も一回りほど年上の孟郎と

も交流しています。さらにその

つながりから、数多くの芸術家

とも交流し、そのサロンとなっ

たのが「旧伊庭家住宅」です。

現在、市指定文化財である「旧

伊庭家住宅」は、大正2(1913)



旧伊庭家住宅

年に貞剛が慎吉のために建てた和洋式木造住宅で、ヴォーリズ建築です。建物内には慎吉のアトリエも設けられており、大阪や東京在住の数多くの画家が、同家に集っていたようです。「旧伊庭家住宅」に残る屏風には、慎吉夫妻に安土で歓待を受けたお礼をつづった書簡が、数多く張られています。大阪在住の画家・斎藤与里は、避暑で過ごした安土での思い出をイラスト入りでユーモラスに、画家ではありませんが思想家・徳富蘇峰夫妻は、秋に訪問したお礼を、児童文学家・巖谷小波も同様のお礼を記しています。

『近江八幡の歴史』第9巻「地域文化財」では、張り交ぜ屏風や旧伊庭家住宅の紹介のほか、画家伊庭慎吉についても記されています。ぜひご覧ください。

### 『近江八幡の歴史』第9巻「地域文化財」 6月1日から頒布開始!

地域の人びとが守り継いできた歴史文化遺産を、市史編纂事業の調査成果から抽出し、紹介しています。

- 第一章 近江八幡の地域文化財
- 第二章 近江八幡の遺跡・景観
- 第三章 宗教文化の広まり - 戦乱と復興 -
- 第四章 近江八幡の文芸 - その土壌と発展 -
- 第五章 近江八幡の近代化遺産

A4判・並製本・本文 361頁・オールカラー 頒価 3,000円

※市史編纂室や文化観光課のほか市内書店などで購入いただけます。

問 市史編纂室 TEL (33) 2118 010424@city.omihachiman.lg.jp



慎吉のアトリエ

🚨 新型コロナウイルス関連の情報は、市ホームページをご覧ください

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、本紙掲載の催しが急に中止や延期になる場合があります。開催の可否は事前に担当課または主催者へご確認ください。また、最新情報は、市のホームページ <https://www.city.omihachiman.lg.jp/> で随時発信しておりますので、ご確認をお願いします。

👤人口と世帯 令和3年5月1日現在 ( )は前月比

総数	82,237人	(+ 24)
男	40,416人	(+ 17)
女	41,821人	(+ 7)
世帯	34,678世帯	(+ 30)

※外国人住民(44カ国・地域/1,600人)を含みます。